市内景気動向調査結果

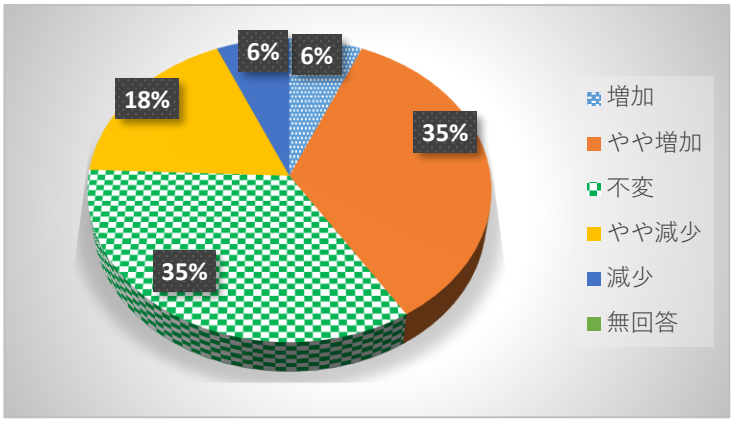
この調査は、第１四半期（令和８年４月から６月）と前年同期間（３ヶ月）の比較を、当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
78	19	8	4	20	23	4

※その他は、回答数が少なかった不動産業、宿泊業

１．売上高はどう変化したか。

増加	5
やや増加	27
不変	27
やや減少	14
減少	5
無回答	0
合計	78



【コメント】

○ 増加・やや増加が41.0%、不変が34.6%、やや減少・減少が24.4%であった。前年同期では、増加・やや増加が43.2%、不変が25.7%、やや減少・減少が31.1%であった。減少のポイントが6.7%減少。

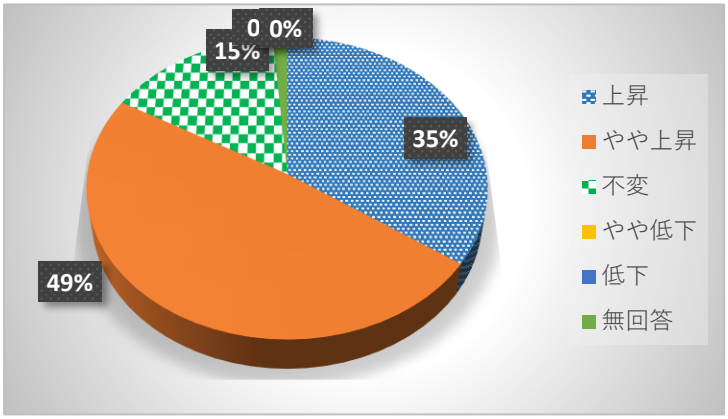
○ 増加・やや増加の業種別割合は、サービス業が37.5%、建設業が25.0%、卸小売業が25.0%、製造業が6.3%、運輸・その他共に3.1%であった。

○ やや減少・減少の業種別割合は、建設業が31.6%、製造業が21.1%、サービス業が21.0%、卸小売業が15.8%、運輸業が10.5%であった。

○ 建設業は、増加・やや増加があるものの、減少の割合が上回った。製造業は、減少・やや減少の割合が大きかった。

２．仕入単価はどう変化したか。

上昇	27
やや上昇	38
不変	12
やや低下	0
低下	0
無回答	1
合計	78



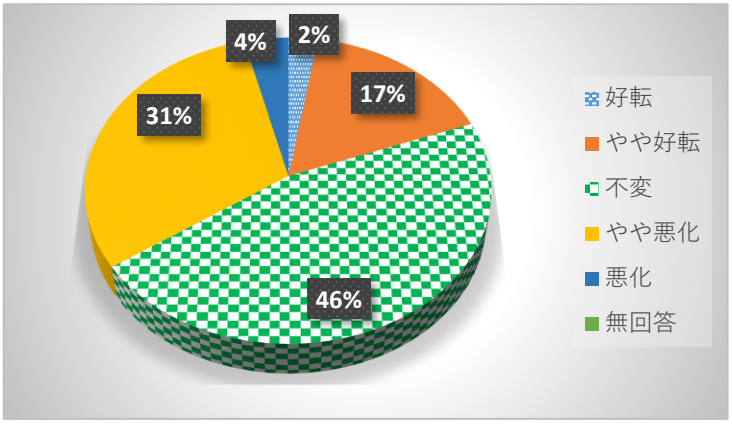
【コメント】

○ 上昇・やや上昇が83.3%、不変が15.4%であった。
前年同期では、上昇・やや上昇が60.8%、不変が33.8%、やや減少・減少が5.4%であった。

○ 上昇・やや上昇の業種別割合は、卸小売業が29.2%、建設業・サービス業が共に24.6%、製造業が12.3%、運輸業6.2%、その他3.1%であった。
○ 前年同期に比べて更に上昇の割合が増加。依然として高い割合で推移している。

3．採算について

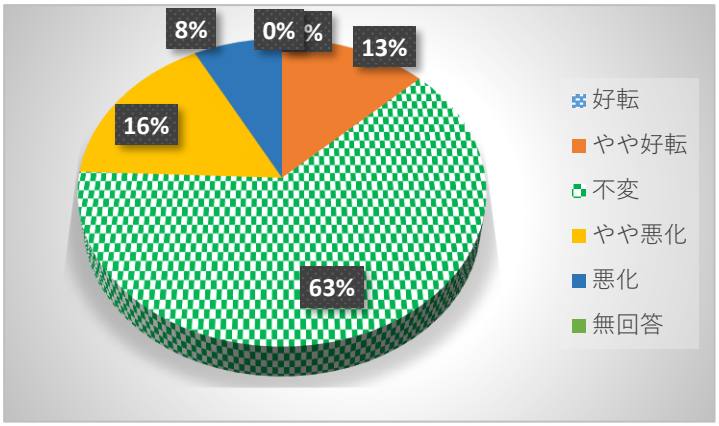
好転	2
やや好転	13
不変	36
やや悪化	24
悪化	3
無回答	0
合計	78



【コメント】
○ 好転・やや好転が19.2%、不変が46.2%、やや悪化・悪化が34.6%であった。前年同期の好転・やや好転が27.0%、不変が41.9%、やや悪化・悪化が31.1%であった。
○ やや悪化・悪化の業種別割合は、卸小売業が25.9%、製造業・サービス業が共に22.2%、建設業が14.8%、運輸業・その他が共にが7.4%となっている。
○ 仕入単価等の上昇・高止まりが続いており、売上減少もあり厳しい状況が続いている。

4．資金繰りについて

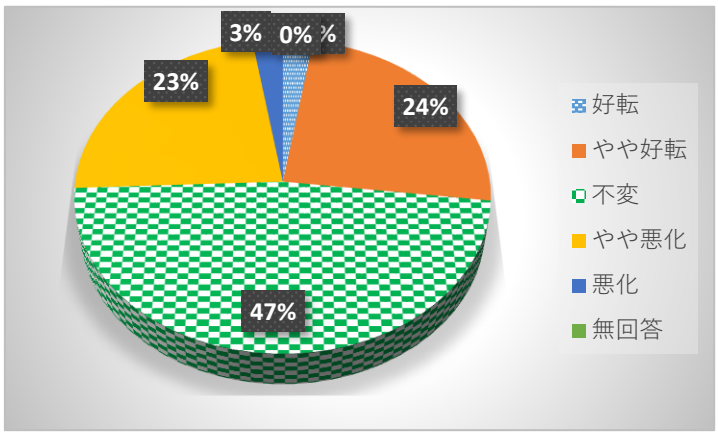
好転	0
やや好転	10
不変	49
やや悪化	13
悪化	6
無回答	0
合計	78



【コメント】
○ 好転・やや好転は12.8%、不変が62.8%、やや悪化・悪化が24.4%であった。前年同期の好転・やや好転が14.9%、不変が62.2%、やや悪化・悪化が21.6%であった。
○ 資金繰り悪化の業種割合では、卸小売業・サービス業が共に31.6%、製造業・建設業が共に15.8%、運輸業5.3%であった。
○ 卸小売業・サービス業においては、売上高の減少、仕入単価の上昇、採算の悪化、資金繰りの悪化と、どの比率も高い状態にあり、物価高騰等の影響を大きく受けていると状況。
○ 資金繰りについては、ほぼ前年同期と同様の状況で、資金需要は大きく増えている状況にはない。

５．業況について

好転	2
やや好転	19
不変	37
やや悪化	18
悪化	2
無回答	0
合計	78



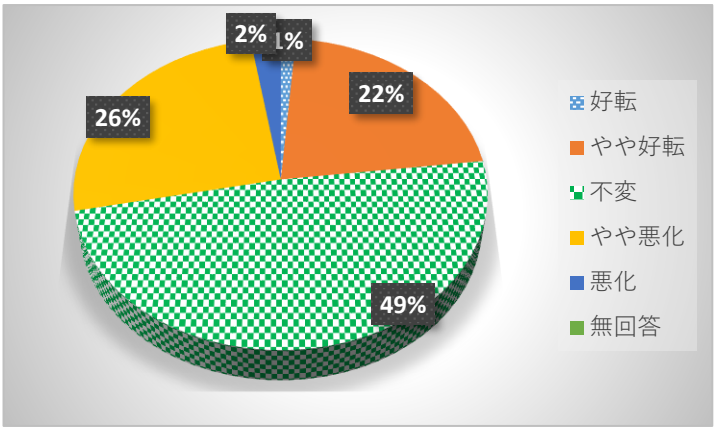
【コメント】

○ 好転・やや好転は26.9%、不変が47.4%、やや悪化・悪化が25.6%であった。
前年同期は、好転・やや好転が28.4%、不変が45.9%、やや悪化・悪化が24.3%であった。

○ 業況悪化の割合が高い業種では、建設業が30.0%、サービス業が25.0%、卸小売業が20.0%であった。

６．今後３ヶ月間の業況について

好転	1
やや好転	17
不変	38
やや悪化	20
悪化	2
無回答	0
合計	78



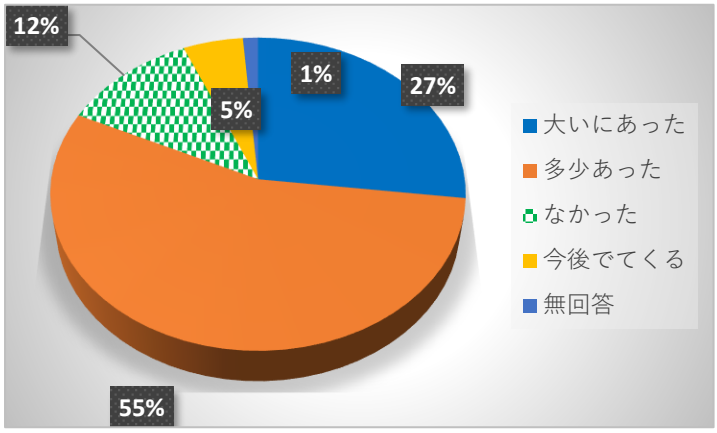
【コメント】

○ 好転・やや好転が23.1%、不変が48.7%、やや悪化・悪化が28.2%で、前年同期では、好転・やや好転が37.8%、不変が36.5%、やや悪化・悪化が25.7%であった。

○ 今後3ヶ月間の業況予想でも、売上高同様に好転と悪化の割合が高く二極化が進むと予想される。

７．中東・ウクライナ情勢・原油価格上昇の影響について

大いにあった	21
多少あった	43
なかった	9
今後でてくる	4
無回答	1
合計	78



【コメント】
○ エネルギーや原材料のコスト高騰を招き、国内の企業経営や家計、物流に大きな影響を与え、82.1%が影響があると回答。また、今後の影響についての想定を含めると、87.2%が影響があると回答。

■回答事業所からのコメント

【建設業】
○ 売上少々増加したが、給料のベースアップ、物価上昇などで採算は不変状態(今年も現場のお盆休みは長いようなので思うように動けず売上も不変となりそう)。

○ 今後も材料仕入れに中東の影響はどんどん増えていくと思われる。
○ 資材の高騰は厳しい。
○ 今後電線等の材料が納品遅れの可能性あり。
○ 塗料入手が困難になっている。納期の延長が必要な案件も出てくると思う。円安から円高に移行していないと益々日本(我々零細企業)は不況になると思う。積極財政と掛け声良いが、裏付けのない政策は愚策である。
○ 冬期から夏期になり、売り上げが伸びてきた。
○ 物価高の影響が人件費へも繋がり、それに見合った受注金額が確保できていない状況。
○ 仕入れ単価が高いので採算があわない。
○ ガソリン代が高くなったなど。
○ ビニール系の材料の価格が上昇した。
○ 油脂関係仕入れに苦戦し、単価上昇のため。

【製造業】
○ 自社にて全国へ販売を開始した結果、外部倉庫の賃貸料や移送に係る運賃で経費が増加し、利益を圧迫している。売上げも以前より悪く厳しい状況が続くと予測している。
○ 補助金制度活用物件の獲得遅れが最大の原因。
○ ナフサ問題等先行きが見えてこないから。
○ 真空袋・ビニールテープなど入手困難・価格も上昇。
○ 毎年４月に薬価ダウン改正があり国定めのために物価上昇分やエネルギーコスト、原資材費高騰を価格転嫁できない。更に中東情勢の影響で製品や原資材の仕入れ価格の上昇に加えエネルギーコスト増となっている。今後の調達リスクの高まりで原価コストをさらに押し上げていく。生産停止リスクは現在のところ低く、回避している。　取り巻く環境変化の好転は見込めない状況にある。

○ オイル・塗料の不足により業務に多少支障があった。

【運輸業】
○ 中東・原油問題と値上げ(物価高)と考える。
○ 原油高、仕入れ価格・オイル不足等かなり影響が出ているが金融機関がついてこない。理解度が低い。
○ 新車購入費用の増加。

【卸小売業】
○ 道内外の大きなイベントへの出店により売上げは増加している一方で、イベント開催時以外の時期は店舗への来店者数が減少してきている。イベントを通じて新たに知っていただいたお客様にお店にも足を運んでいただける様な取組が今後の課題です。
○ 天候不順で仕入単価変動、冠婚葬祭の変化・消費者の購買力低下に付随し、企業動力もこれとして取組をしていない。
○ シンナー・ゴム・シャフトの仕入原価上昇。価格に上乗せしにくい。

○ プラボトルの値上げがあったため７月からの価格改正をお願いした。他、段ボールなどの資材値上げ有。7月からイベントが多くなるので参加して売上upを目指す。

○ 化学肥料などの大幅な値上げに伴いコントラ業家(堆肥)の需要が高まり思いがけず売上増加に繋がっている。ただ、燃料高騰で素直に喜べない。
○ 工場部材の不足。
○ ウクライナ情勢による影響、仕入れ値の大幅な値上げ、全商品の値上げがきつい。

○ ナフサ不足で部品等が入ってこないので売上上がらず。
○ ６月迄は中東情勢の影響で売り上げ増加。７月からは中東情勢の影響もひと段落し、売り上げは悪化する見通し。
○ 客数は減少しているが客単価upにより売上増加。買い物の頻度も減少し、特売日に買いだめする傾向があり、節約志向が強い。

【サービス業】
○ 重油単価の上昇による燃料代の支出増。
○ 仕入れ商品の価格が上がっている。
○ ファイターズ２軍が恵庭市に決まったので好転材料になりえると思う。燃料代が上昇した分の負担を元請けにお願いしたが、承諾をもらえなかった。
○ 売上上昇につき利益好転したが仕入単価上昇により利益率悪化。仕入の立替により資金繰り悪化。代表者より短期借り入れにより運転資金は確保した。
○ 家計支出が増えそう。
○ 奉仕事業で使用する備品や消耗品の仕入れ価格が上昇傾向にある。事業運営費への影響が大きく、今後の予算管理において課題となっている。
○ 職業訓練の生徒の減少に対しテストセンターの売上で若干増加。但し家賃も増加しているので利益は悪化。
○ 前年比体制面変更しており、単純な比較はできない(レストラン部門外注委託だったものを自社で運営した)
○ 公共工事も動き出し、これからが業界のピークに向かっていきます。整備機械が多い為オイル関係、アドブルー塗料、新車購入についても影響が出ている。

○ エンジンオイル等の入荷不足・価格上昇の影響が少しずつ出ており、今後支障をきたすと思われる。
○ エンジンオイル等オイル関係が不足気味になった。
○ 中東情勢状況が不安定なことを受け、燃料費の急騰により入手調達困難も想定しながら工場稼働となっており、今後の景気予測や見通しの不透明感が強く、様々な資材値上げによる経費の増加が現実となってきている。日用品等の物価上昇から人流や観光業界も節約傾向が考えられる。各顧客への値上げ折衝を継続していくが、即効性のある売上確保とはならないことが想定でき、今後の事業運営として厳しい状況が続くと予想する。
○ 中東情勢による原油・原材料高騰で仕入単価が上昇し、売上業況はやや悪化している。しかし、コスト削減の自助努力により採算と資金繰りは不変を維持している。

【その他】
○ 新築の建設に影響があるため、土地が売れない。リフォーム費用も高騰しているため中古住宅も売れない状況が続いている。
○ 1 不動産管理部門は不変、3 不動産関係は売り上げがダウン、5・6 不動産取引は今後も減少していく予想。但し今後大幅な経営戦略変更により管理・リフォームに特化していく所存。現況、不動産のピークは過ぎた？
○ ・エスコン効果による国内個人客の増加。
・韓国を中心としたゴルフ客の増加。
・学生（スポーツ）団体の増加